

趣味を楽しむ自分の似顔絵を描いた名刺、座右の銘を書き込んだお札状、ビジュアルが鮮やかなグルメマップに飲食店メニュー、巻物に記した観光案内…。ユーモアと発信力に満ちたオンラインワンのデザインが光る。ほかにチラシ、タペストリー、ロゴ入り衣服、ポスター、ダイレクトメールなど品ぞろえは豊富だ。

取引先は2千社超にも上り、年間100社ペースで増加。媒体なら何でもござれの柔軟性と確かな技術で信頼を勝ち取り、実用案件や商標も取得。「売り上げだけでなく、ファンのがが大事だ」と真野貴司社長(43)はスタイルを強調する。

創業以来、進取の精神を貫く。紙の代替材として注目されるケナフを使った封筒を売り出したり、プラスチックが主流の名刺箱を処分しやすい紙で作ったりするなど、環境面に



4色のインキを含んだ機械。カラフルなデザインを可能にする

# 輝く島の企業

▼ 15

## 淡路印刷

南あわじ市山添

### ビジュアルデザイン



ユニークな商品の数々を手にする真野貴司社長。業界と地域をもっと元気にと願う＝いずれも淡路印刷本社

〈メモ〉創業は1978年6月。社会貢献の一環として、不要な本を引き取り、売却益を東日本大震災の復興義援金に充てている。本社は南あわじ市山添。資本金4500万円。従業員数は15人。アフリメディアジャパンの設立は2011年で、淡路島のブログポータルサイトなども手掛けている。

配慮を続けてきた。

単なる印刷業者の枠にとどまらない果敢なチャレンジを支えるのは、地縁血縁の濃い淡路島での営業姿勢だ。「他社との人間関係ができて

と指摘する。提案できる多彩なコンテンツを編み出し、業界では珍しい商品カタログを約3年前に完成させた。

来々早々に神戸営業所を開業予定だ。通常言葉では表現しにくいクラ イアントによる要望のイメージ。それに合う色や書体を選ぶソフトを導入し、さらなる顧客満足を狙う。地域経済への還元にも積極的だ。

島内の求人情報誌「Q人あわじ」を発行するほか、チラシとインターネットによる販促、PRキャラクターづくりなどのセミナーも開く。

業界全体の発展へも行動を起こす。経営支援に取り組み関連会社「アフリメディアジャパン」を設立。中小社員らの勉強会「日本印刷力レ ッジ」を、今年6月に東京と大阪で立ち上げた。商売繁盛のポイントを紹介した月刊ペーパーも出版し、営業時に顧客に渡すよう勤めている。走り続ける原動力は「もっと元気に、もっとおもしろく」との情熱。愛する郷土、そして情報化社会におけるビジネスの可能性を、これからも引き出す。(佐藤健介)

郷土の情報おもしろく